

**ドラッグストア業界売上8位 配置薬業界1位の(株)富士薬品  
東京本部を配置薬業界紙（薬日新聞等）に公開  
配置薬を根幹に新薬開発を手掛けるドラッグストア**  
発行 日本置き薬協会事務局

さいたま市大宮区に本社を置く(株)富士薬品は昨年4月に東京本部を千代田区神田錦町2丁目のKANDA SQUARE 9階に開設した。同ビルは東京電機大学跡に住友商事により再開発され、地上23階、地下1階、延床面積85,257㎡の規模を持ち、その9階の全フロア2,859㎡を利用。大宮本社本部500名のうち約300名を移転させた。開設は「ブランドイメージの向上」、「優秀な人材確保」、「海外との新たな拠点作り」を目的とし、「明日また来たくなる遊び心のあるオフィス」をコンセプトにしているとのことだ。

今回の公開に当り、富士薬品グループの2020年の業績も発表されている。売上高3,928億80百万円（前年比98.9%）、経常利益124億20百万円、配置事業売上233億80百万円（全体の6%）、その経常利益額9億80百万円、受託製造等その他が100億10百万円（全体の2.5%）。経常利益率はドラッグストア事業が3.45%、配置事業が4.19%。

主体とする配置薬事業は全国に285拠点、営業員1,883名、得意先軒数約300万件で、令和3年度は222億円の前年度5%減の売上を予定している。配置薬市場全体の売上は1,200億円と想定（筆者による）され約20%が同社の占有率と思われる。営業員数も配置全従事者数の20%弱である。

ドラッグストア事業（1992年開始）では、2020年のドラッグストア売上高では7位のココカラファインの4,006億45百万円（店舗数1,354店）と8位のクリエイトSDホールディングスの3,195億88百万円（店舗数855店）の間に入る3,594億90百万円（店舗数1,360店）となる。

同社は1986年より自社向け配置用医薬品の製造を富山市で開始。1991年からは医療用医薬品開発に取組み、高尿酸血症治療薬「トピロリック錠」を2013年に、また昨年には選択的尿酸再吸収阻害薬「ユリス錠」を上市。高尿酸血症剤は世界に7剤しかない中で同社が2剤を開発し、その普及に力を入れ、今後の成長エンジンとなると見られている。なお(株)富士薬品は非上場会社である。

